平成 16 年度
宮崎県医師会勤務医部会総会・研修会

と　き　平成 16 年7月 10 日（土）15：30～

ところ　宮崎県医師会館　４階研修室

宮崎県医師会勤務医部会

平成 16 年度
宮崎県医師会勤務医部会総会・研修会

と　き　平成 16 年7月 10 日（土）

ところ　宮崎県医師会館　４階研修室

◎ 勤務医部会総会　　１５：３０～

◎ 講　演　会　　１６：００～１８：００

○『離島医療に学ぶ』
下甑村国民健康保険直営手打診療所　所長
瀬戸上　健二郎　先生

○『日本の挑戦：21 世紀の課題』
日本学術会議　会長　・　東海大学　教授
黒　川　　清　　先生

◎ 懇　親　会（無　料）　１８：００～
３階会議室

講師のご紹介　**瀬戸上　健二郎（せとうえ　けんじろう）先生**
下甑村国民健康保険直営手打診療所　所長

ご　略　歴　　鹿児島出身

学歴： 昭和３４年　　鹿児島県立志布志高等学校卒業
昭和４１年　　鹿児島大学医学部卒業

職歴： 昭和４２年　　鹿児島大学第一外科入局
昭和４７年　　国立療養所南九州病院
昭和５３年　　下甑村立手打診療所

講演テーマ　　**『離島医療に学ぶ』**

一口に離島医療と言っても正に千差万別、離島の数だけ離島医療があると言っても過言ではない。まず離島医療には様々な側面がある。本土から見た離島はへき地かも知れまない。しかし、島の人たちにとってはかけがえのない故郷であり、生活の中心である。また東南アジアやアフリカなどの発展途上国からみると、離島は日本の玄関であり、手の届く身近な目標ということにもなりそうである。更に、医学教育の場としての離島もあるし、癒しの場としての離島もある。

ところで、Dr.コトー診療所と言ったらお解りでしょうか。漫画のタイトルなのだが、実はこの漫画のモデルになったのが手打診療所です。離島医療というのは実にドラマチックで、厳しさと共に医療の歓びを実感できる分野だと思っているが、その離島医療をテーマに青少年に夢と希望を与えるような漫画をとスタートしたのがこの漫画で、既に 13 巻まで刊行されている。非常に人気が高いみたいで、昨年はＴＶドラマ化もされた。さすがに、ＴＶの影響力は大きく、最近、Dr.コトーに会いたいとわざわざ島にまで来てくださる方もいる。とくに若い人に人気があるみたいで、将来は離島医療を目指したいという小・中学生が何人も見え、中には、それまで学校にも行かず閉じこもりがちだったのが俄然やる気を出したという娘さんもいた。

有り難いことで、離島医療に対する理解と支援の広がりを実感しているのだが、でも現実の離島医療にはまだまだ解決しなければならない課題が山積している。２６年の経験を振り返りながら、離島医療の一端をお話しさせていただきたい。

講師のご紹介　**黒川　　清　（くろかわ　きよし）先生**
日本学術会議　会長　・　東海大学　教授

ご　略　歴　　東京都出身

学歴：	昭和３０年	成蹊高等学校卒業
	昭和３７年	東京大学医学部卒業
	昭和４２年	東京大学医学研究科大学院（医学博士）
職歴：	昭和４４年	ペンシルバニア大学医学部生化学助手を経て、
	昭和４９年	南カリフォルニア大学医学部内科準教授
	昭和５２年	カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部内科準教授
	昭和５４年	同　教授。
	昭和５８年	東京大学医学部第四内科学教室助教授
	平成　元年	東京大学医学部第一内科学教室教授就任
	平成　８年	東海大学教授、医学部長（～平成１４年）
	平成　９年	東京大学名誉教授
	平成１４年	東海大学教授、総合医学研究所長
	平成１５年	日本学術会議会長、総合科学技術会議議員
	平成１６年	東海大学教授、東京大学先端科学技術研究センター客員教授

講演テーマ　　**『日本の挑戦：21 世紀の課題』**

世界戦争が次々と起こった 20 世紀が冷戦終結を迎え、交通と情報技術の驚異的な進歩と共にやってきた「国際化」の 21 世紀。世界第 2 の規模を誇る日本の経済は低迷し、構造改革は掛け声だけで実現へは「できない理由」ばかりが聞こえる。なぜか。現在は歴史の延長であり、国際的動向の底流は何かを考え、歴史観、世界観のある、志の高い、高潔なリーダーがなぜか出てこない。ここにこそ日本の問題がある。明治以来のわずか 140 年にもならない近代日本の歴史を振り返っても、すばらしいリーダーは何人も出ている。医学分野で言えば北里、志賀、秦、野口、田原、高安、橋本、山際等々、熱い心と、高い志にかられた人たちが国際的に活躍し、今でも名を残している。100 年も前にこれだけの人たちがいたことは決して少ない数ではないだろう。税収の縮小とともに、バブル経済の時期をとおして膨れ上がった政府特殊法人等が国の足を引っ張る。護送船団の大企業が改革の足を引っ張る。官尊民卑の価値観のままですすむ行政改革の名のもとに、行政の都合で行われる国立諸機関、大学、病院、研究所、美術館等の法人化の一方で、GDP の１％という巨額の科学技術投資が従来構造の大学研究所、そして企業の研究所に投資される。これで日本はどれだけ経済回復、構造改革が進み、先進国にふさわしい世界貢献できるか。国の品格が問われる。これからの日本の課題と問題点を探る。